

上海宣言

荒海に舵を取り続けて

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 8）は、「河川集水域と河口域の調和」というテーマのもと、450名を超える参加者により中国・上海で開催された。同会議には中国と世界36の国の職域・研究機関・学校・一般家庭から、沿岸域の持続可能性に共通の関心を有する研究者・政策立案者・教師・学生・企業関係者・公務員・NGOの代表が一堂に会した。ここに以下の決議を宣言する。

我々は世界のほとんどの地域で、沿岸海域の修復・保存・管理計画が実施されている事実を喜ばしく考える。それらの中には一定の成果が出た長期にわたるものもある。例えば、黒海の酸素不足に陥っていた瀕死の海の改善、デラウェア河口域の富栄養域の改善などがある。これらは今回の上海会議に出席した国々における環境教育が学校や一般家庭向けに実施され、人々の意識が変化した結果である。各分野の指導者によるこのような極めて深刻で重要な環境問題に対する取組み、並びに政府間の協力が次第に広がりつつあることを、われわれはうれしく思う。

それにもかかわらず、我々は、今日、荒波に舵を取り続けているような困難に直面している。しかし、華麗なビル群に示される昨今の上海のすばらしい経済成長は、我々に大きな計画を成し遂げる能力があるとの希望を抱かせる。とは言え、過去の経験から、我々は経済成長に注意が向けられると環境問題が無視される傾向があることを学んだ。環境問題は国の福利には取るに足らないものとみなされているからである。世界経済が混乱状態にあるとき、今回の会議が開催され、環境問題を論じているのは極めて対照的である。政府が経済問題に対する有効な解決策を求める場合、人々の関心は環境問題から遠くなる。好況であれ、不況であれいずれの場合も沿岸海域が深刻な影響を受ける可能性がある。具体的には水質の悪化、資源生産性の喪失、生態系の完全破壊さえもありえる。

国の経済状況がどのようなであろうとも、我々は政府が沿岸海域を軽視するのを絶対に許してはならない。これを許すことになれば、多くの人々が努力して築き上げた成果を台無しにするだけでなく、沿岸地域社会の福利と繁栄の基礎である環境を犠牲にする可能性がある。さらに我々が経験からまず最初に学んだのは、沿岸海域の環境破壊防止事業より修復事業のほうが費用がかかり最終的には沿岸海域は、他の生態系と同様、ダイナミックで急速に変化しているということである。これらの変化は生態的・社会的・政治的側面を有し、いずれも急速に増大しつつある。そのため、継続的な注意深い測定によってのみ可能な監視と、その成果を適切に反映する管理計画の実施を必要とする。この測定の究極の目標は地球温暖化対策にある。この問題に対応しなければ、地球温暖化とその結果生じる海面の上昇により、世界中の沿岸海域に取り返しのつかない影響が出ることとなるだろう。

未曾有の好況、あるいは不況にあるとき、我々が沿岸海域の保護についてどれほど強く主張しようとも、また、どれほど科学的研究による裏づけを示そうとも、経済についての人々の懸念を払拭し、政治指導者の注意と行動を海域保護に向けることはできない。我々は、健全で、生産的で、持続可能な沿岸海域が国の経済の安定にとって必須であるとこれらの政治指導者に納得させなければならない。したがって、いずれの国においても、またどのような政治的体制にあっても、我々は、人間を、世界中の連綿とつながる沿岸海域に不可欠な存在として正しく組み入れる観点に立ち、これを提唱する。この立場は次の要素から成り立つ。

1. 沿岸海域およびその河川集水域は単一のシステムの要素として考えられるべきである。その結果、環境と政策立案の観点からの両者間の調和がシステム全体に恩恵をもたらすことになる。
2. 同様に沿岸地域の社会の経済・文化・創造的活動も、同じ沿岸システムの統合的要素として理解され、調和していなければならない。
3. 従って、沿岸システムのいずれかの要素に質の低下があれば、すべての構成要素に悪影響を及ぼす。逆に、いずれかの要素を改善する活動が見られれば、システム全体が向上することになる。

過去の EMECS 会議の宣言文では、経済的、環境的資産として世代から世代へと受け継がれ、漁業・農業・商業・リクレーションのような持続可能な経済的利益を生み出す陸・水・人間の活動の間の関係を表すのに、「共存活動の圏域」という表現が用いられた。今回の会議では、「里海」という示唆に富む新しいコンセプトが導入された。これは、調和のとれた人間活動の結果、高い生産性と生物多様性を得た沿岸海域のことを表わす。これら二つのコンセプトは、沿岸海域社会と沿岸海域そのものとの間の好ましい関係がもたらす経済的価値を表わすものである。この関係を正しく把握すれば、利益を得る可能性が生まれるが、それを無視すれば、危機が訪れる。

「里海」とは、人類と閉鎖性海域との間の建設的な相互作用の促進を強調する考え方である。様々な形態が考えられるこの相互作用は、調和の取れた継続的な環境保護プログラムによって実現が可能であろう。生態系に基盤を置く資源管理と農業の実践による持続可能な経済的利益は、「里海」の持つもう一つの局面である。リクレーションや芸術活動を通じて沿岸海域のシステムと触れ合う活動もまた、「里海」の別の局面である。特に、急速な経済開発に伴い環境が変化している昨今においては、政府機関、産業界、支援機関は、「里海」に前向きな結果を及ぼす事業に大規模な財政的、知的資源を投入する必要がある。つまり、地元社会が水質を改善し、生活資源である環境を管理する活動を行う体制整備プロジェクトに資源を投入する必要がある。それを成功させることによって、将来に向けた「里海」の持続可能性が維持されていく。また、「里海」は若者と自然界を結びつける教育を重視しており、自然と触れ合う経験から学ぶ機会を提供している。さらにこの考えは、自然界に対する若者の深い関心が、社会や家族、自分たちの健全性にいかに関連してい

るかをも重視している。この会議での「学生宣言」から若者の声が聞こえてくる。若者たちの宣言を我々は強く支持する。我々の答えが彼らを失望させないことを約束する。第8回世界閉鎖性海域環境保全会議の宣言は簡潔である。つまり、陸・水・人間それぞれが、世界の沿岸海域にとって必須の構成要素という原則に基づき行動しなければならないということである。経済と環境は、芸術と自然に密接に結びついているが、これら全ては教育によって繋がれる。これが、「里海」から得た教訓である。この考えを採用することにより、今日の困難を乗り越えることができる。我々が次の世代に伝えたいのはこのことである。これが我々のコミットメントであり、我々の約束である。

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議

参加者一同

中国 上海市

2008年10月30日

(事務局仮訳)